

■江崎濟 教育家。八女教学の祖。維新初期に、僻地で「北ざい(オズイ内)義塾」を開いて、多くの逸材を育成した。

えさきわたる

阿部正弘首座1845= 久留米城下南部の庄島中ノ丁で、藩士(徒士)森山栄太郎の一人っ子に生まれる。幼名は元次。

孝明天皇・1846= 1歳: この年、10代藩主有馬頼永が篠山城で病没し、慶頼が襲封して11代久留米藩主となる。

両親の温かく厳しい愛育のもとで成長し、

国定忠治疎・1850= 5歳: この年、江戸赤羽藩邸において参政村上守太郎刃傷事件起こる。

万次郎帰国・1852= 7歳: この年、真木泉州等が幽閉される。

ペリー来航・1853= 8歳:

開国開港・1854= 9歳: 藩校「明善堂」に入学。成績は抜群で、

桜田門外変・1860=15歳: 成人して江崎濟と改名、異菴と号し、

遣欧使節・1861=16歳: 漢学者加藤米山の塾に入門。周囲を驚かす猛烈な勉強ぶりで、漢学の素養を積み、日本各地が騒然とするなか、

8月18日政変 1863=18歳:

禁門の変・1864=19歳: 藩政改革で、「明善堂」居寮生に抜擢され、副寮長に起用されるが、真木泉州の自刃にも影響され、苦悶、

大政奉還・1867=22歳: 藩内の佐幕派と尊攘派の対立抗争が激化、

明治維新・1868=23歳: 久留米藩参政だった「明善堂」教授不破美作暗殺されるなど、多くの人材が失われていくのを憂慮、

戊辰戦争終・1869=24歳: 新政府の咎めに、多くの人材が切腹するに至って、青少年教育に献身すべく、「明善堂」を出て、筑前の「亀井塾」を訪れ、ついで東京に赴き、安井息軒の塾に学んで、

初の日刊新聞1870=25歳:

廃藩置県・1871=26歳:

学問のすすめ1872=27歳: \*相談に来た「明善堂」の居寮生若林卓爾・内藤蔵三郎とともに矢部山中桑取蔵に姿を晦ます。三人が自給自足するには無理があり、病をえた若林、我慢できない内藤が下山するも、ひとり晴耕雨読の生活を続けるうち、藩内に知れわたり、その学才を惜しむものが溢れるなか、学制の発布に衝撃を受け、下山して小学校創設に奔走し始めるや、地元有識者らから歓迎されて、

明治6年政変 1873=28歳:

佐賀の乱・1874=29歳:

初の民間工場1875=30歳:

三つの反乱・1876=31歳: 黒木小学校に招かれると、「黒木塾」を開設、

西南戦争・1877=32歳:

琉球処分・1879=34歳:

明治14年政変1881=36歳:

初の対等条約1888=43歳:

帝国憲法発布1889=44歳:

帝国議会始・1890=45歳:

大本教・1892=47歳:

日清戦争始・1894=49歳:

日清戦争終・1895=50歳:

Bushidou・1899=54歳:

ピアノ国産化・1900=55歳:

日比谷公園・1903=58歳:

日露戦争終・1905=60歳:

アヲキ創刊・1908=63歳:

大逆事件判決1911=66歳:

明治天皇没・1912=67歳:

21ヶ条要求・1915=70歳:

ロシア革命・1917=72歳:

原敬首相暗殺1921=76歳:

護憲三派圧勝1924=79歳:

円本時代始・1926=81歳:

インターネット「八女教学の祖 江崎濟」および「北?義塾」、

筑後平野での陸軍特別大演習挙行で、明善校が明治天皇の行在所となった際、福岡県知事の依頼で上奏文を起草するなど、学識は相変わらず高く評価され、

この年、仁田原重行が陸軍中将に任ぜられ第2師団長となる。

この間、結成された竹原青年会の夜学会を開講、生涯学習の先取りともいべきものになっている。

福岡県庁舎・議事堂改築落成に際し、庁舎を「観衆閣」と命名し、その撰文を起草するなどして、

久留米市櫛原町萃香園で、喜寿金婚祝宴を開く。

この年、陸軍大将仁田原重行が死去。

この年、牛島謹爾が米国で客死。\*明善校教諭現職のまま、没した。

この年、牛島謹爾が米国で客死。\*明善校教諭現職のまま、没した。

この年、牛島謹爾が米国で客死。\*明善校教諭現職のまま、没した。

この年、牛島謹爾が米国で客死。\*明善校教諭現職のまま、没した。

この年、牛島謹爾が米国で客死。\*明善校教諭現職のまま、没した。

この年、牛島謹爾が米国で客死。\*明善校教諭現職のまま、没した。

この年、牛島謹爾が米国で客死。\*明善校教諭現職のまま、没した。

この年、牛島謹爾が米国で客死。\*明善校教諭現職のまま、没した。